

## 【AADC-0122 (gastric)】 エスワン内服 + ドセタキセル点滴 療法


■ **どういった患者さんへのレジメンか?** : 切除不能・再発胃癌（一次治療）、StageⅢ 術後補助化学療法

■ **効果** (①J Cancer Res Clin Oncol.140(2):319-328(2014).②JACCRO GC-07 trial)

①切除不能・再発胃癌（一次治療）：奏効率 38.8%、無増悪生存期間 5.3 ヶ月、生存期間中央値 12.5 ヶ月

②StageⅢ 術後補助化学療法：主要評価項目 3年無再発生存率（RFS rate）65.9%

■ **スケジュール** 3週で1サイクル 22日目が次のクール day1

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
注																						
朝		⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	休薬						
夕	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	休薬							

- ・ドセタキセル点滴は1日目。エスワンは点滴日の夕食後から、2週間服用して1週間休薬します。
- ・当院採用のドセタキセルはアルコールフリーです。

■ **副作用情報** (J Cancer Res Clin Oncol.140(2):319-328(2014))

種類	発現頻度	種類	発現頻度
発熱性好中球減少症	2.9%	食欲不振(Grade≥3)	15.5%
白血球減少(Grade≥3)	21.9%	疲労(Grade≥3)	5.8%
好中球減少(Grade≥3)	29.0%	悪心(Grade≥3)	5.8%
血小板減少(Grade≥3)	1.6%	嘔吐(Grade≥3)	3.2%
貧血(Grade≥3)	11.6%	口内炎(Grade≥3)	4.2%

■ **支持療法** : 抗がん剤治療による有害事象に対応する **基本的な処方** です。

患者さまの常用薬、状態に応じて変更する場合がございますので、ご承知おきください。

<b>点滴 翌日から</b> 飲むお薬 点滴当日は 静注でステロイド 投与しています	デカドロン錠(4) 1日2回 <b>朝と昼</b> 食後 1回 <b>1錠</b>	<b>浮腫予防</b> のため服用します。 点滴翌日から 2日間 飲みます。 <b>昼に飲む理由は、</b> 16時以降に飲むと不眠になる可能性があるからです。
	ファモチジン OD (20) 1日2回 朝と夕食後 1回 <b>1錠</b>	デカドロン錠による胃腸障害を予防するのと 抗がん剤によるムカムカ症状を緩和します。 点滴翌日から 2日間 飲みます。

### ■ 服薬指導のポイント

- ・エスワンは空腹時だと抗腫瘍効果が減弱するとの報告があるので食後に服用する。  
もし、全く食べられない場合はエスワンを服用するか否かについて病院へ確認するようお伝えする。  
この治療自体の催吐性リスクは **軽度リスク分類** である。
- ・**下痢**: 下痢は脱水を招くおそれがある。下痢により水分だけでなく電解質も喪失するので、**電解質含有の水分を摂る** よう伝える。**発熱口内炎を伴うような場合は病院に連絡する。**  
**ドセタキセル点滴治療の場合、点滴して 1週間後 あたりが いちばん抵抗力が落ちているので 要注意！**

下痢をした場合の具体的なアドバイスとしては

下痢により体に必要な電解質もでていってしまい、例えば低カリウムを起こすことがある。

電解質を含んだ飲料水を排泄のたびコップ1杯以上とり、水だけ や お茶だけ といった水分の摂り方はしない。

カリウムの多い食品としてはバナナなどがある。食事の一回量を減らし、回数を増やす。

食事の1回量が多いほど、胃結腸反射が起き下痢を誘発しやすいので、回数を多く取る方法に切り替える。

下痢時、避けたほうがよい食品としては、カフェイン、アルコール、炭酸飲料、ナッツ類（ナッツは非常に油分

を多く含んでいる。多すぎる油分が腸に入ると、水分と油分が分離してしまい下痢を誘発する）、全粒粉食品、

ふすま製品、揚げ物を含む高脂肪食品などは、消化器系に刺激を与える可能性があるため、摂取を控える。

食事の温度も重要。非常に熱かったり、また冷たかったりする食べ物は、下痢の要因となる。

## ・口内炎

口内炎には薬の粘膜に対する直接的な障害と、薬による骨髄機能の抑制（骨髄抑制）に伴う局所感染によって生じる二次性障害の2つがある。骨髄の機能が低下時に口内炎が重なると、口内炎によって傷ができたところに細菌などが侵入して感染しやすくなるため注意が必要。相澤病院院内製剤のレバミピド含嗽水を使用している患者さんもいるかもしれません。（病院で口内炎用のうがい薬をだしてもらっているという場合には「茶色の瓶に入ったものですか？それなら使うたび、よく振ってご使用ください」とお伝え下さい）

## ・脱毛：ドセタキセル投与による脱毛：点滴開始2～3週間後に始まる方が多い。

予め髪を短くしておいた方が、ショックが少ないとされる。脱毛は髪の毛だけではなく、全身の体毛においておきる。ドセタキセル投与終了後半年から1年程度かけて元に戻るが、毛質が変わることがある。

## ・皮膚障害

全身に痒みを伴うような発疹が起きた場合は、迷わず病院に相談するよう伝える。当院事例では、市販の『ムヒ』を塗りながら、エスワンを飲み続けた患者さんがいました。

無理してでも服用する患者がいることを念頭に置きましょう。

色素沈着で肌が黒っぽくなる方がいます。

直射日光によりそれが更に強くでることが予測されるので、日焼け防止対策をお伝えする。

シミが増えた、肌があるといった相談があるかもしれません。

ドセタキセルによる手足症候群（末梢神経障害）予防のため当院では凍らせたペットボトルを点滴中使用していただく（手足にあてる）ことをお勧めしている。

（女性は比較的にこのアドバイスを受け入れ、点滴中冷やしている方が多い）

保湿を促していただくことも有用。



## ・爪の変化

本治療に用いるエスワン、ドセタキセルともに爪障害を起こしやすい薬剤である。

手の爪は指先を保護する、物をつかみやすくする、指を支え微妙な感覚をコントロールする、足の爪には体重を支えるなど大事な役割を担っている。治療による爪の変化として患者さんから爪に横線が入る、爪が変色する、爪が弱くなったなど訴えがあるかもしれないので、爪の変化について質問してみるとよい。

アドバイスとしては、爪用のマッサージオイル（ネイルキューティクルオイルなど）を利用して爪の成長を促したり、日常の爪保としてマニキュアを用いて爪の凹凸、ひび割れなどに対応する。ただし、爪囲炎の場合はマニキュア塗布が爪囲炎悪化に繋がることもあるので、爪の周りの様子も観察するよう伝える。

## ・浮腫：浮腫がなくても2日間の支持療法薬は、きちんと服用するよう伝える。ドセタキセル投与によって体液貯留に伴う浮腫が起きる可能性がある。浮腫が起きる背景として毛細血管漏出症候群によるものとされ浮腫が出てしまった場合は、利尿剤などの対処がとられる。この治療を継続している方に、利尿剤が追加となった場合は浮腫の可能性がある。足の浮腫の場合は寝るときクッションなど用い足を少し高くして休むと浮腫が和らぐことがあるとされる。

浮腫を確認するには、まぶたが重くないか、靴や靴下がきつくないか、体重がいきなり増えてないか など  
**この治療9～10回頃から浮腫が悪化してくる可能性がある。（DTX 累積投与量 350～400mg/m<sup>2</sup>到達）**

## ・流涙：エスワンによる流涙は、角膜障害による涙液分泌亢進や涙道障害による涙液排出低下がその原因として疑われています。当院ではエスワン開始にあたり、眼科との連携をとっています。眼科医の対応のひとつとして、防腐剤を含まない人工涙液によりWash outを行うことを指導しており、市販薬「ウェルウォッシュアイ」か「ソフトサンティア」を購入する患者さんがいるかと思しますので、点眼方法のご指導をお願いいたします。



## ・関節痛、筋肉痛

関節痛・筋肉痛を訴える場合がある。ドセタキセルを点滴してから2～3日後に出現し、数日間持続する。しかし患者さんは次の受診の頃は症状を忘れていたりする。

必要に応じてNSAIDs処方なども可能なので、点滴後数日間の痛みがないか確認するようにし

痛みがあった場合は次回受診時に、どんな痛みがどの程度あったのか医師に伝えるよう指導する。